

IPAB コンテスト：「コンピュータで薬のタネを創る」 広告掲載の募集

特定非営利活動法人 並列生物情報処理イニシアティブ (IPAB)

IPAB コンテスト：「コンピュータで薬のタネを創る」運営委員会

運営委員長 関嶋政和

2014年1月16日

広告掲載の募集について

このたび、特定非営利活動法人 並列生物情報処理イニシアティブ (IPAB)では社会貢献活動の一環として、IT 創薬 (コンピュータを用いて新薬候補化合物の効率的な探索を行う方法) の啓蒙と人材育成を目的としたコンテスト『IPAB コンテスト:「コンピュータで薬のタネを創る」』を企画いたしました。コンテストの概要は 3 ページ目をご覧ください。さて、この実施に当たりまして、本活動にご賛同くださり IT 創薬の一層の活性化をともに目指してくださる法人の皆さまの広告掲載を募集しています。掲載の決まりおよび掲載料は以下の通りです。

広告費と広告内容

種別 A : 30 万円 (税込) (募集件数 2 件程度)

第一位または審査員特別賞を命名していただきます。加えて、企業ロゴまたは企業名を IPAB コンテストウェブページ内に掲載いたします。

種別 B : 5 万円 (税込) (募集件数 特に上限なし)

企業ロゴまたは企業名を IPAB コンテストウェブページ内に掲載いたします。

IPAB コンテストウェブページ

<http://www.ipab.org/eventschedule/contest>

お申し込み方法

別に添付いたしました申込書に広告の種別 (A または B) および申込者の情報をご記入の上、office@ipab.org にお送りください。受付後 IPAB コンテスト運営委員より、掲載する情報などについてお問い合わせいたします。

お問合せ先

IPAB コンテスト運営委員会 office@ipab.org

IPAB コンテスト：「コンピュータで薬のタネを創る」 ご挨拶

「薬を一つ創る」、このためには十数年にわたる期間と数百億円に及ぶ膨大な費用が必要であり、加えて近年はこの研究開発費がますます増加しているため、創薬のための新しい技術が世界的に模索されています。こうした中で、コンピュータを用いて新薬候補化合物の効率的な探索を行う方法（IT 創薬）に高い関心が寄せられています。わが国でも、2012 年から本格的な運用が始まった理化学研究所に設置されたスーパーコンピュータ「京」や東京工業大学の「TSUBAME 2.5」などを利用した IT 創薬プロジェクトがいくつもスタートし、IT 創薬の取り組みが広がっています。しかし、欧米と比較して、わが国での取り組みは遅れを取っているといわざるをえない現状があります。そこで、IT 創薬に関する技術を広く浸透させること、IT 創薬への参加者の裾野を広げることを目的として、創薬プロセスの上流であるヒット化合物（薬のタネ）の探索をテーマに、当コンテストを企画しました。当コンテストでは、化合物ライブラリの中から、課題とした標的蛋白質の機能を強く阻害する化合物を参加チームに予測・選択してもらい、実際にそれらの化合物の阻害活性を実験（アッセイ）によりランキングし、“良い”化合物を提案したチームを表彰します。コンテストと銘打ってはいますが、勝敗を決定することは二の次です。なぜなら、たった一回のアッセイ結果で、手法の良し悪しを統計的に結論付けることは不可能だからです。むしろ、高専生・大学生・大学院生・創薬に関わる現役研究者に、「自分たちで化合物を選択する。そのアッセイ結果が実際にフィードバックされる」という過程を経験してもらう人材育成に主眼を置いています。今回は初めての開催ということもあり、規模は大きくはありませんが、多くのチームに参加して頂けることを期待いたします。

● コンテスト概要

参加者に標的蛋白質に対して阻害活性を有すると思われる化合物を指定した化合物ライブラリから予測して頂き、その化合物の ID を提出して頂きます。その後、IPAB でそれらの化合物について実際にアッセイを行い、その結果で化合物の阻害活性をランキングし、予測結果を評価します。

● 今後のスケジュール

- 2014 年 3 月 20 日（木）：参加者による提案化合物の提出締切り。
- 2014 年 6 月頃：アッセイ結果の公表。
- 2014 年 7 月頃：IPAB にて、コンテストの講評。

● 運営体制、審査体制

➢ 運営委員会

関嶋政和（委員長、IPAB 理事・創薬情報 WG 担当／東京工業大学）、石田貴士（東京工業大学）、千葉峻太郎（東京工業大学）

➢ 審査委員会

広川貴次（委員長、産業技術総合研究所）、本間光貴（理化学研究所）、池田和由（(株)レベルファイブ）